

防災科研ニュース

特集

- ・緊急地震速報への防災科研の貢献
- ・緊急地震速報へのHi-netの貢献
- ・地震波波形処理と提供の研究
- ・地震情報解析システムの研究開発
- ・受信側の基礎データシステムの開発
- ・緊急地震速報の利活用技術の開発
- ・リアルタイム地震情報：今後の課題

受賞報告

- ・亀田弘行客員研究員がCERRA賞を受賞

行事開催報告

- ・タイ科学技術週間2007にて出展とシンポジウム開催



特集

緊急地震速報を支える防災科研の技術

本年10月1日から気象庁を通じて一般の方々に「緊急地震速報」の配信が始まります。昨年8月からは、特定のユーザに向けた配信が既に行われています。緊急地震速報は、地震の震源近傍で観測された初期微動から、地震の震源やマグニチュード、震度などを即時に推定して、地震の本格的な大きな揺れが来る前に、ユーザに伝達し地震防災・減災に役立てるための全く新しい情報です。言うまでもありませんが、地震が既に発生していることを検知して、それを地震波よりも格段に早い電気信号により遠隔地に伝えるのですから、「地震予知」とは全く異なる性質のものです。

防災科研では、文部科学省からの委託により平成15年度より5年計画で「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」(経済活性化のためのプロジェクト～リーディングプロジェク

ト～の一環)に取り組み、緊急地震速報を実用化するための様々な技術開発に取り組んできました。本年度(平成19年度)は、同プロジェクトの最終年度となりますが、その最終年度が修了する前にプロジェクトの成果が実用化に至ったわけです。

今回の特集号では、「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」における成果を中心に「緊急地震速報を支える防災科研の技術」についてお伝えします。紙面の都合上、ほんの概要しか紹介できませんが、プロジェクトの詳細については、次のURLをご覧ください(<http://www.bosai.go.jp/kenkyu/sokuji/index.htm>)。

なお、防災科研ニュース2007年夏号No.160には、第4回緊急地震速報展・講演会(8月3日開催)に関する行事開催報告を掲載しております。合わせてご覧ください。